

# 宮崎県経済の動き

(平成16年)

## 目 次

1	概	況	-----	1	
2	各	論	-----	2	
3	資	料	編	-----	4

平成17年6月

宮崎県総合政策本部統計調査課

# 1 概況

景気は、消費の面では依然厳しい状況が残ったものの、生産活動や雇用の面で持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復基調となった。

平成16年の本県経済は、鉱工業生産指数が第3四半期まで上昇を続けたが、第4四半期になると前期を下回った。しかし、生産は年間を通じると大きく増加した。大口電力使用量も前年を上回った。

個人消費については、主要ホテル・旅館宿泊客数が前年を上回るなど一部に持ち直しの動きがみられたものの、大規模小売店舗売上高（店舗調整後）が連続して前年を下回るなど、低調に推移した。

雇用情勢については、有効求人倍率や新規求人数が前年を上回るなど持ち直しの動きがみられた。

投資関連については、新設住宅着工戸数が前年を上回ったが、公共工事請負金額が依然低調であった。

企業倒産については、件数は前年を下回り、負債額も前年を大きく下回った。

## ○主な経済指標

下段：前年比(%)または前年差(ポイント)

分野	指標	単位	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年
生産	鉱工業生産指数 (原指数)	指数 (H12=100)	100.0 8.8	92.1 △ 7.9	90.1 △ 2.2	93.6 3.9	104.5 11.6
	鉱工業在庫指数 (原指数)	指数 (H12=100)	100.0 1.6	105.2 5.2	95.6 △ 9.1	96.5 0.9	93.4 △ 3.2
	大口電力使用量	千kwh	1,758,805 10.5	1,741,515 △ 1.0	1,687,649 △ 3.1	1,690,485 0.2	1,844,560 9.1
消費	大規模小売店舗 売上状況	億円	1,692.24 △ 3.7	1,657.97 △ 3.5	1,454.29 2.3	1,509.90 △ 5.3	1,740.99 △ 3.2
	新車登録台数	台	32,460 2.0	31,446 △ 3.1	31,196 △ 0.8	30,713 △ 1.5	28,869 △ 6.0
	新車届出台数	台	26,566 △ 1.2	26,317 △ 0.9	26,313 △ 0.0	25,887 △ 1.6	26,788 3.5
	航空便 利用客数(乗)	人	1,654,065 0.1	1,663,383 0.6	1,659,803 △ 0.2	1,621,934 △ 2.3	1,547,810 △ 4.6
	航空便 利用客数(降)	人	1,648,492 △ 1.6	1,679,042 1.9	1,670,205 △ 0.5	1,605,931 △ 3.8	1,534,401 △ 4.5
	主要ホテル・ 旅館宿泊客数	人	1,281,161 3.8	1,187,201 △ 7.3	1,166,728 △ 1.7	1,082,160 △ 7.2	1,163,972 7.6
	消費者物価指数 (総合指数)	指数 (H12=100)	100.0 △ 0.5	99.2 △ 0.8	98.2 △ 1.0	98.1 △ 0.1	98.0 △ 0.1
雇用・労働	有効求人倍率 (季節調整値)	倍 ※ 前年差	0.44 0.03	0.44 0.00	0.42 △ 0.02	0.51 0.09	0.60 0.09
	新規求人数	人	57,464 8.6	56,980 △ 0.8	59,834 5.0	65,085 8.8	71,449 9.8
投資	新設住宅着工 戸数	件	9,966 1.1	8,526 △ 14.4	7,815 △ 8.3	7,748 △ 0.9	8,033 3.7
	公共工事請負 金額	億円	2,718.27 △ 13.2	2,387.37 △ 12.2	2,358.52 △ 1.2	2,177.86 △ 7.7	2,000.56 △ 8.1
企業・金融	企業倒産件数	件	206 15.1	143 △ 30.6	122 △ 14.7	108 △ 11.5	99 △ 8.3
	企業倒産負債額	億円	375.42 36.7	3,726.82 892.7	141.36 △ 96.2	461.31 226.3	160.59 △ 65.2

注 大規模小売店舗売上の金額（消費税は含まない）は店舗調整前、前年比は店舗調整後の数字である。

## 2 各論

### (1) 生産関連

鉱工業生産指数（3－1表）は、104.5で前年比11.6%の増、出荷指数（3－1表）は、102.4で同7.5%の増、在庫指数（3－1表）は93.4で同3.2%の減となった。

大口電力消費量（3－2表）は、18億4,456万kwhで前年比9.1%の増となった。

### (2) 消費関連

大規模小売店舗売上状況（3－3表）は、1,740億9,900万円で、店舗調整後で前年比3.2%の減となり、2年連続で前年を下回った。

新車登録・届出台数（3－4表）は、新車届出台数（同660cc未満）が26,788台で前年比3.5%の増となったが、新車登録台数（排気量660cc以上）が28,869台で同6.0%の減となった。

航空便利用客数（3－5表）は、乗客数が154万7,810人で前年比4.6%の減、降客数が153万4,401人で同4.5%の減となった。

主要ホテル・旅館宿泊客数（3－6表）は、116万3,972人で前年比7.6%の増となった。

消費者物価指数（3－7表）は、総合指数、生鮮食品を除く総合指数ともに前年と横ばいであった。

### (3) 雇用・労働関連

有効求人倍率（3－8表）は、0.60で前年比0.09ポイントの増であった。

新規求職申込件数（3－9表）は、80,461件で前年比1.3%の減となったが、新規求人数（3－9表）は、71,449人で同9.8%の増となった。

実質賃金指数（きまって支給する給与）、総実労働時間指数、所定外労働時間指数、常用雇用指数（3－10表）はともに、前年を下回った。

### (4) 投資関連

新設住宅着工戸数（3－11表）は、8,033戸で前年比3.7%の増となった。

公共工事請負件数（3－12表）は6,486件で前年比7.8%の減、請負金額（3－12表）は、2,000億5,600万円で同8.1%の減となった。

### (5) 企業・金融関連

企業倒産件数（3－13表）は99件で前年比8.3%の減、負債額（3－13表）は、160億5,900万円で同65.2%の減となった。

金融機関預金残高（3－14表）は、12月末時点で3兆4,200億円、金融機関貸付金残高（3－15表）は、同じく1兆9,300億円となり、ともに前年末とほぼ横ばいであった。



< 資 料 編 >

### 3 経済指標の動き

#### 生産関連

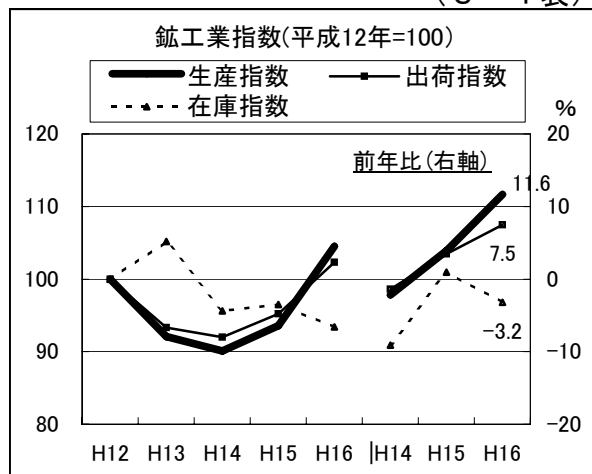
##### (1) 鉱工業指数

(平成12年=100)

年値は原指数、四半期値は季節調整済指数)

- 生産指数は、104.5で前年比11.6%の増となった。
- 出荷指数は、102.4で前年比7.5%の増となった。
- 在庫指数は、93.4で前年比3.2%の減となった。

(3-1表)



平成12年=100

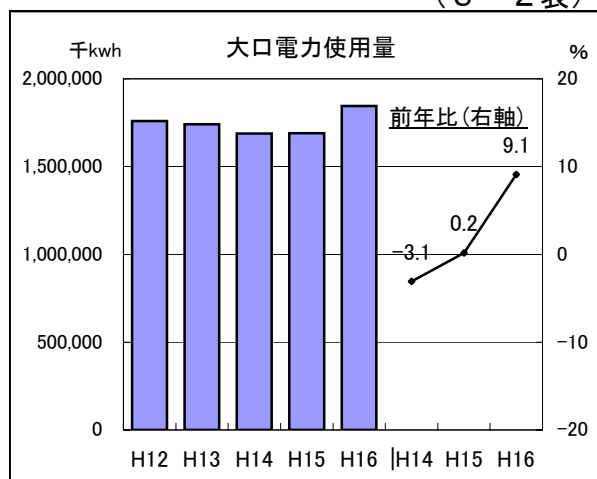
鉱工業指数	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
生産指数	100.0	92.1	90.1	93.6	104.5	103.1	104.7	108.0	102.3
出荷指数	100.0	93.3	92.0	95.2	102.4	102.8	102.7	103.7	100.2
在庫指数	100.0	105.2	95.6	96.5	93.4	87.1	101.0	100.5	70.4

(資料：県統計調査課)

##### (2) 大口電力使用量

- 大口電力消費量は、1億8,456万kwhで前年比9.1%の増となった。

(3-2表)



単位：千kwh

	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
大口電力使用量	1,758,805	1,741,515	1,687,649	1,690,485	1,844,560	433,228	493,823	459,534	457,975

(資料：九州電力(株)宮崎支店)

## 消費関連

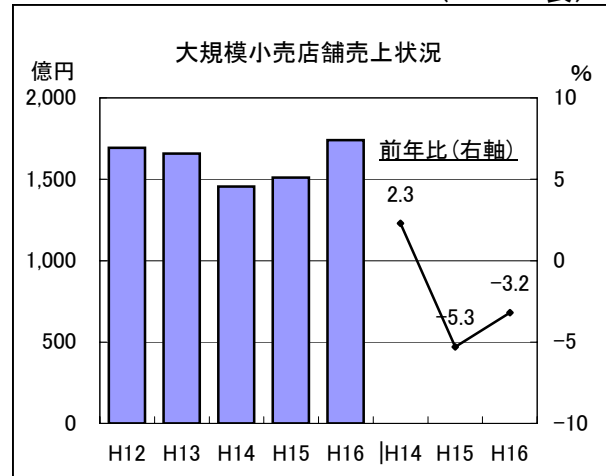
### (3) 大規模小売店舗売上状況

(百貨店、専門店及びスーパー 計24社89店舗)

○大規模小売店舗売上状況は、1,741億9,900万円で、店舗調整後で前年比3.2%の減となり、2年連続で前年を下回った。

※ 平成16年1月調査より調査対象先を拡大したため、売上高は連続しない。  
 ※ 前年比は、店舗調整後の比較である。

(3-3表)



単位：億円

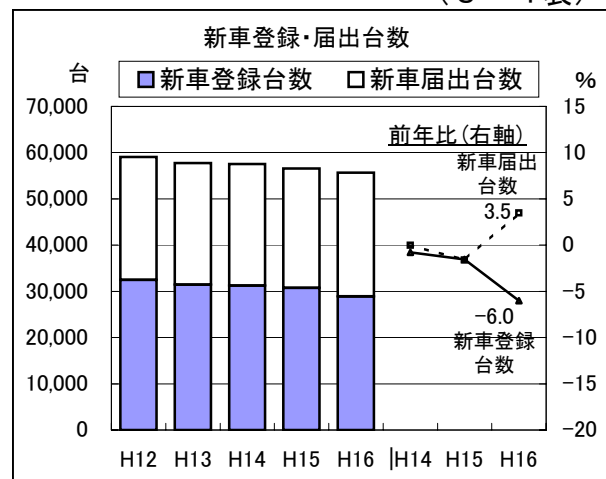
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
衣料品	494.48	455.92	374.28	360.93	347.81	94.21	87.75	74.28	91.57
食料品	478.04	475.14	411.42	430.93	572.81	131.59	132.74	149.75	158.73
その他	719.72	726.90	668.59	718.08	820.36	196.39	194.78	208.20	220.99
計	1,692.24	1,657.97	1,454.29	1,509.90	1,740.99	422.19	415.28	432.23	471.29

(資料：九州財務局宮崎財務事務所)

### (4) 新車登録・届出台数

○新車登録台数は、28,869台で前年比6.0%の減となった。  
 新車届出台数は、26,788台で前年比3.5%の増となった。

(3-4表)



単位：台

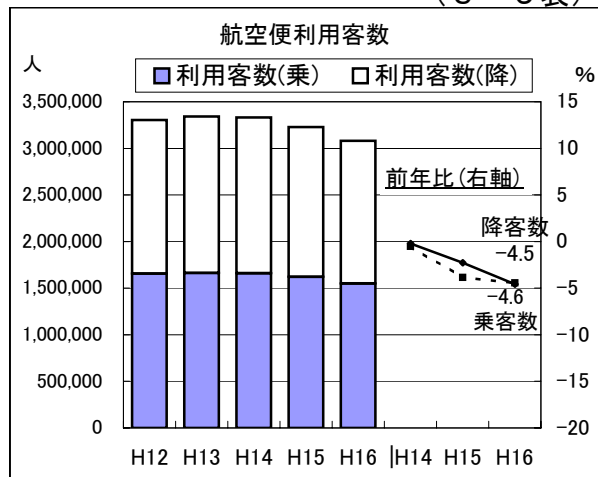
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
新車登録台数	32,460	31,446	31,196	30,713	28,869	8,687	6,053	7,196	6,933
新車届出台数	26,566	26,317	26,313	25,887	26,788	8,047	6,241	6,401	6,099

(資料：日本自動車販売協会連合会宮崎県支部)

(5) 航空便利用客数

(3-5表)

- 乗客数は、154万7,810人で前年比4.6%の減となった。
- 降客数は、153万4,401人で前年比4.5%の減となった。



単位：人

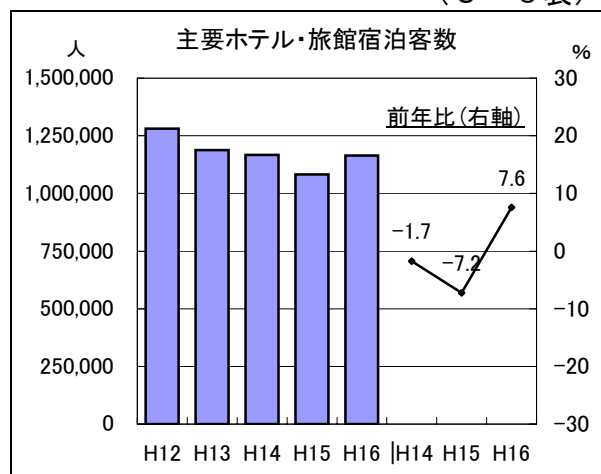
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
利用客数(乗)	1,654,065	1,663,383	1,659,803	1,621,934	1,547,810	413,173	357,792	392,474	384,371
利用客数(降)	1,648,492	1,679,042	1,670,205	1,605,931	1,534,401	384,934	352,575	391,823	405,069

(資料：宮崎交通株)

(6) 主要ホテル・旅館宿泊客数

(3-6表)

- 主要ホテル・旅館宿泊客数は、116万3,972人で前年比7.6%の増となった。



単位：人

	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
宿泊客数	1,281,161	1,187,201	1,166,728	1,082,160	1,163,972	295,512	258,692	298,544	311,224

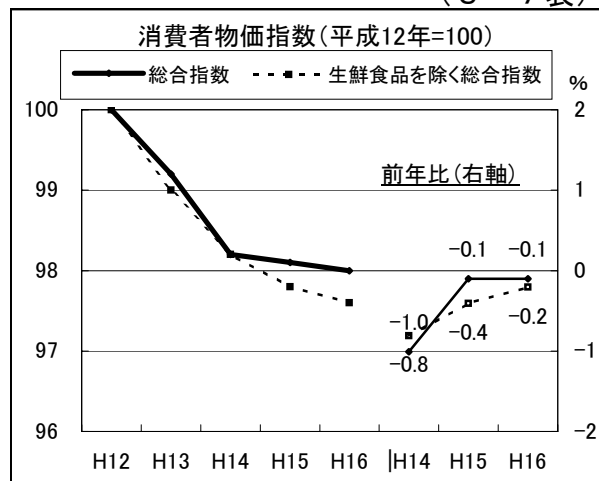
(資料：県観光・リゾート課)



(7) 消費者物価指数 (平成12年=100)

(3-7表)

○総合指数は、前年と横ばいであった。  
生鮮食品を除く総合指数は、前年と横ばいであった。



平成12年=100

	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
総合指数	100.0	99.2	98.2	98.1	98.0	97.6	98.0	98.1	98.5
生鮮食品を除く	100.0	99.0	98.2	97.8	97.6	97.3	97.9	98.0	98.0

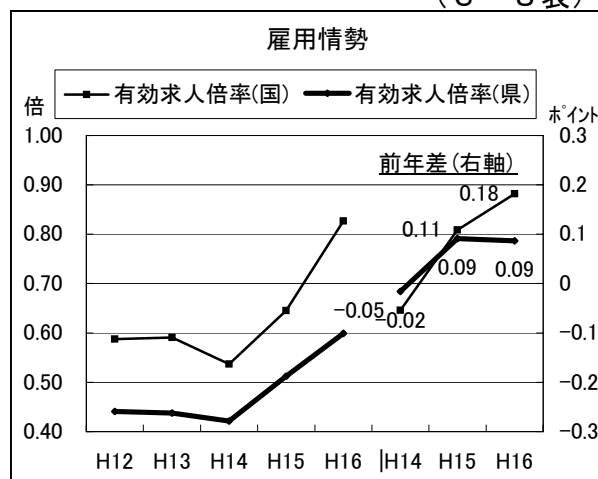
(資料：県統計調査課)

雇用・労働関連

(8) 雇用情勢

(3-8表)

○有効求人倍率 (県、季節調整値) は、0.60で前年比0.09ポイントの増であった。



単位：倍

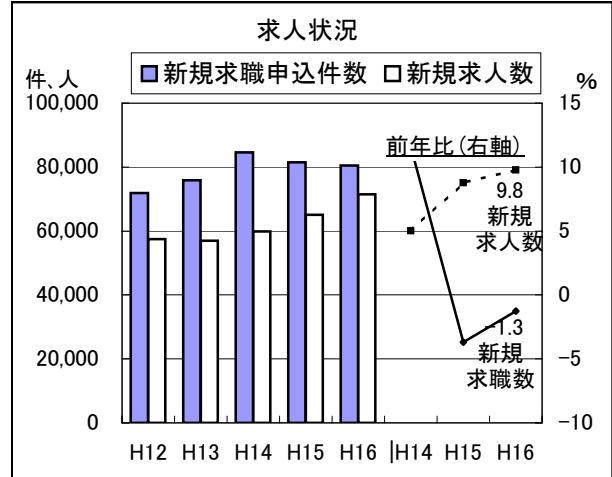
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
有効求人倍率(国)	0.59	0.59	0.54	0.65	0.83	0.76	0.80	0.85	0.90
有効求人倍率(県)	0.44	0.44	0.42	0.51	0.60	0.55	0.59	0.63	0.63

(資料：宮崎労働局職業安定部)

(9) 求人状況

(3-9表)

- 新規求職申込件数は、80,461件で前年比1.3%の減となった。  
新規求人数は、71,449人で前年比9.8%の増となった。



単位：件、人

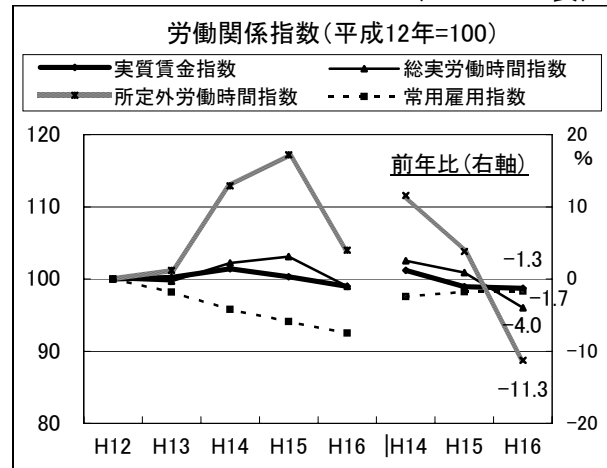
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
新規求職数	71,829	75,840	84,618	81,499	80,461	21,478	23,348	19,190	16,445
新規求人数	57,464	56,980	59,834	65,085	71,449	17,598	16,595	18,944	18,312

(資料：宮崎労働局職業安定部)

(10) 労働関係指数 (平成12年=100)

(3-10表)

- 実質賃金指数、総実労働時間指数、所定外労働時間指数、常用雇用指数はともに、前年を下回った。



平成12年=100

	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
実質賃金指数	100.0	100.2	101.4	100.3	99.0	101.7	100.1	96.7	97.5
総実労働時間指数	100.0	99.7	102.2	103.1	99.0	99.3	99.5	98.5	98.7
所定外労働時間指数	100.0	101.2	112.9	117.2	104.0	114.3	98.8	98.0	104.8
常用雇用指数	100.0	98.2	95.8	94.1	92.5	92.7	92.5	92.5	92.3

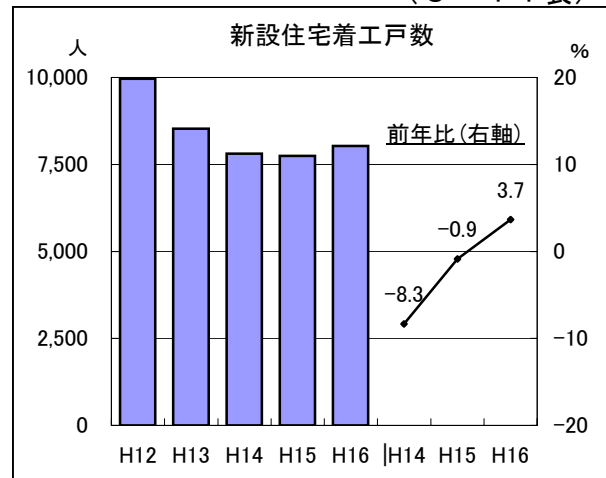
(資料：県統計調査課)

## 投資 関 連

### (11) 新設住宅着工戸数

(3-11表)

○新設住宅着工戸数は、8,033戸で前年比3.7%の増となった。



単位: 戸

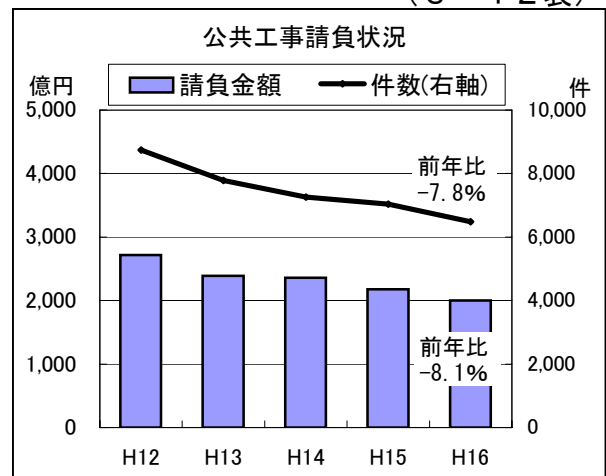
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
新設住宅着工戸数	9,966	8,526	7,815	7,748	8,033	1,635	1,938	2,350	2,110

(資料: 県建築住宅課)

### (12) 公共工事請負状況

(3-12表)

○公共工事請負件数は6,486件で、前年比7.8%の減となった。  
公共工事請負金額は、2,000億5,600万円で、前年比8.1%の減となった。



単位: 件、億円

	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
件数	8,744	7,784	7,261	7,032	6,486	1,759	791	1,564	2,372
請負金額	2,718.27	2,387.37	2,358.52	2,177.87	2,000.56	409.04	377.50	658.43	555.59

(資料: 西日本建設保証(株)宮崎支店)

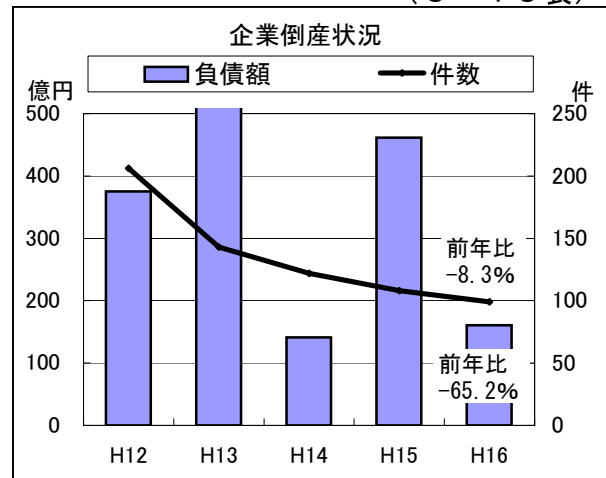
# 企業・金融関連

## (13) 企業倒産状況

(負債総額1千万以上の法人及び個人企業)

○企業倒産件数は99件で、前年比8.3%の減となった。  
負債額は、160億5,900万円  
で前年比65.2%の減となった。

(3-13表)



単位：件、億円

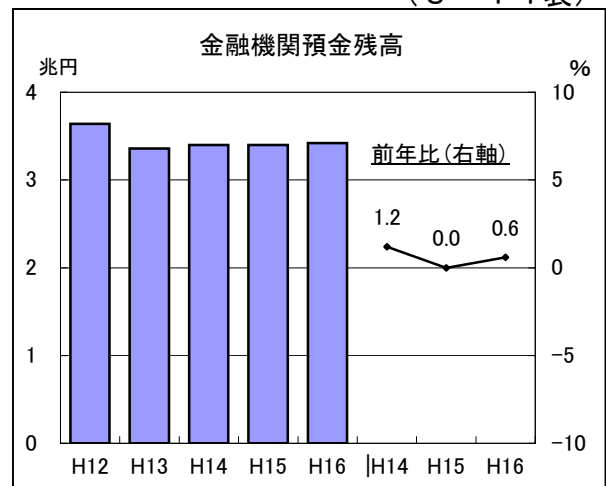
	H12	H13	H14	H15	H16	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
件数	206	143	122	108	99	31	20	25	23
負債額	375.42	3,726.82	141.36	461.31	160.59	35.77	31.13	67.47	26.22

(資料：東京商工リサーチ)

## (14) 金融機関預金残高

○金融機関預金残高は、12月末時点で3兆4,200億円となり、前年末と横ばいであった。

(3-14表)



単位：兆円

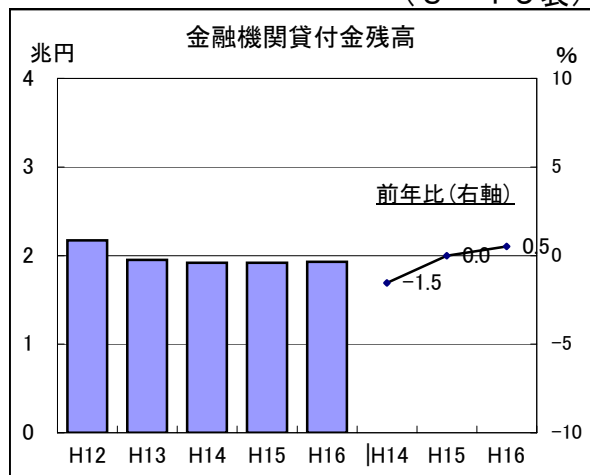
	H12.12	H13.12	H14.12	H15.12	H16.12	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
預金残高	3.64	3.36	3.40	3.40	3.42	3.32	3.39	3.35	3.38

(資料：日本銀行宮崎事務所)

(15) 金融機関貸付金残高

(3-15表)

○金融機関貸付金残高は、12月末時点で1兆9,300億円となり、前年末と横ばいであった。



単位：兆円

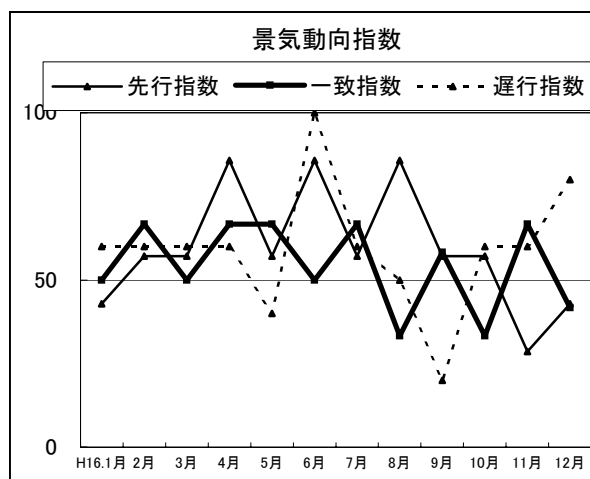
	H12.12	H13.12	H14.12	H15.12	H16.12	H16 I	H16 II	H16 III	H16 IV
貸出金残高	2.17	1.95	1.92	1.92	1.93	1.92	1.90	1.91	1.92

(資料：日本銀行宮崎事務所)

景気動向指数

(16) 景気動向指数

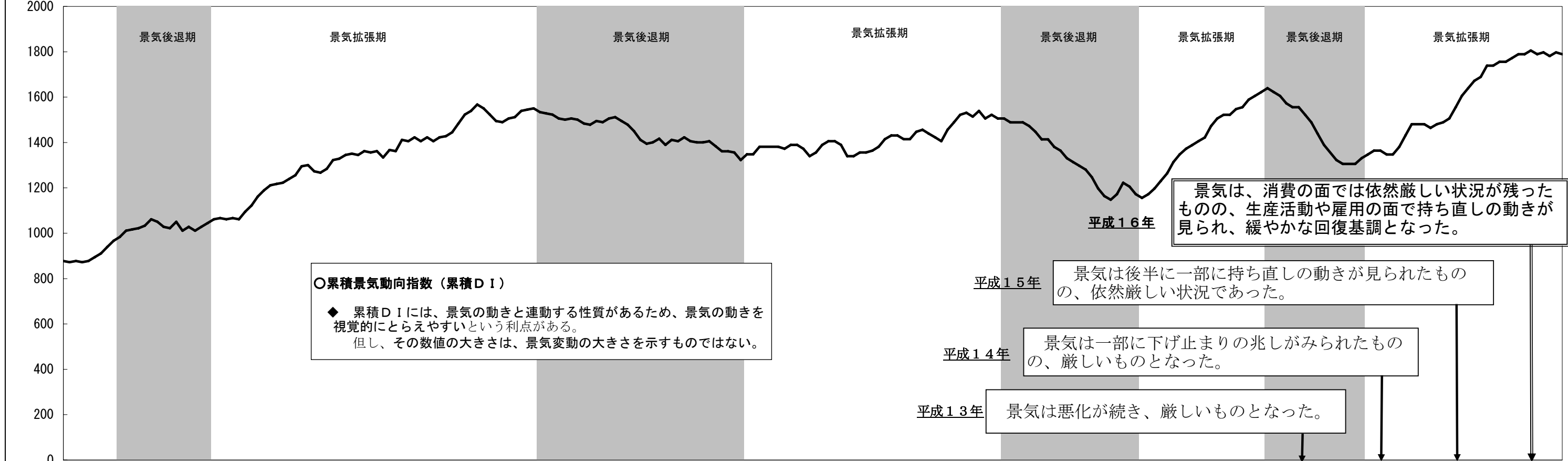
○一致指数は、7月まで50%以上で推移したが、8月以降は毎月50%を上下し、12月時点で41.7%になった。



	H16.1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
先行指数	42.9	57.1	57.1	85.7	57.1	85.7	57.1	85.7	57.1	57.1	28.6	42.9
一致指数	50.0	66.7	50.0	66.7	66.7	50.0	66.7	33.3	58.3	33.3	66.7	41.7
遅行指数	60.0	60.0	60.0	60.0	40.0	100.0	60.0	50.0	20.0	60.0	60.0	80.0

(資料：県統計調査課)

### 宮崎県の累積景気動向指数の推移（一致指数）



○累積景気動向指数（累積DI）

◆ 累積DIには、景気の動きと連動する性質があるため、景気の動きを視覚的にとらえやすいという利点がある。但し、その数値の大きさは、景気変動の大きさを示すものではない。

景気は、消費の面では依然厳しい状況が残ったものの、生産活動や雇用の面で持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復基調となった。

景気は後半に一部に持ち直しの動きが見られたものの、依然厳しい状況であった。

景気は一部に下げ止まりの兆しがみられたものの、厳しいものとなった。

景気は悪化が続き、厳しいものとなった。

年	昭和60年	61年	62年	63年	平成元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年											
全国の景気循環	円高不況		平成（バブル）景気			バブル崩壊後の平成不況（第1次）						消費税引き上げの平成不況（第2次）																			
日本経済の動き	4月 9月 10月 12月 対外経済政策 プラザ合意 内需拡大に関する対策及び対外経済対策	9月 総合経済対策	5月 緊急経済対策		4月 消費税導入	前半 バブル崩壊		3月 緊急経済対策	8月 総合経済対策	4月 新総合経済対策	9月 緊急経済対策	2月 総合経済対策	4月 緊急円高・経済対策	9月 経済対策		4月 消費税5%に引き上げ	4月 金融ビッグバン始動	11月 緊急経済対策 総合経済対策	11月 経済新生対策	10月 日本新生のための新発展政策	4月 緊急経済対策 改革先行プログラム	10月 緊急対応プログラム	2月 早急に取り組むべきデフレ対応策	6月 当面の経済活性化策等の推進について	10月 改革加速のための総合対応策	12月 改革加速プログラム	11月 月例経済報告で「景気持ち直し」	11月 新紙幣発行			
本県の動き		3月 宮崎県総合長期計画（第三次宮崎県総合長期計画）策定 宮崎県立宮崎病院全面完成	9月 宮崎港開港式典	6月 宮崎港開港式典	5月 第一次指定 宮崎・日南海岸リゾート構想 新県立図書館の開館	7月 高千穂鉄道開業	4月 空港ターミナル完成 宮崎空港2500m滑走路と	3月 第四次宮崎県総合長期計画（第1次）	3月 第四次宮崎県総合長期計画（第2次）	4月 宮崎県立芸術劇場開館 世界ベテランズ宮崎大会開催 「オーシャンドーム」オープン JR日豊本線（宮崎市街地）高架完成	8月 全国高等学校総合体育大会開催 宮崎県林業総合センター開所	3月 県立農業大学校開校	7月 九州縦貫自動車道人吉くさびね間開通 「シーガイア」グラウンドオープン	10月 九州健康福祉祭みやざき大会開催 JR宮崎空港連絡線開通	11月 第四次宮崎県総合長期計画（第3次）策定 第四次宮崎県総合長期計画（第4次）策定	3月 県立看護大学開校	4月 新県立日南病院改築オープン 新県立延岡病院改築オープン	11月 県武道館開館	3月 県警察本部新庁舎竣工 グリーン博みやざき'99開催	4月 東九州自動車道（宮崎西）清瀬間）供用開始	3月 太平洋・島サミットの開催	7月 九州・沖縄サミット宮崎外相会合の開催	2月 「サンマリノスタジアム宮崎」オープン 東九州自動車道（西都）宮崎西間）供用開始	3月 宮崎〜ソウル間国際定期航空線開設 第五次宮崎県総合長期計画スタート	4月 第38回献血運動推進全国大会 ワールドカップサッカーチームのキャンプ実施	5月 宮崎情報ハイウェイ21開通	7月 宮崎〜東京間スカイネットアジア航空就航	8月 「リゾート宮崎IT特区」認定 「神話・伝説のふるさとツーリズム特区」構造改革特区第1号認定	4月 宮崎県立西都原考古博物館オープン 「木の花ドーム」オープン	8月 「リゾート宮崎IT特区」認定	7月 宮崎県雇用・産業再生指針策定 新しい長期計画「長期ビジョン」策定

注 平成13年から平成15年までの概況は、「本県経済の概況（商工観光労働部）」である。